

5月15日の田植え(コシヒカリ)に向けて、育苗は計画的に！

～育苗ハウス内の温度管理を適正に行い、病害の発生を防ぐとともに健全な苗に仕上げましょう～

1 コシヒカリ(5月15日田植えの場合)の育苗作業スケジュール(後編)

月日	作業・温度	作業管理のポイント【営農情報第1号もご覧ください】						
4/25	播種・出芽 (出芽は約3日間) 育苗器の設定 出芽温度は30℃ (温度厳守) ※サーモスタットは 事前に点検	①うすまき(乾籾 120g/箱)で健苗づくり ・播種時にダコレート水和剤(1000倍・箱当たり1ℓ)を散布しましょう。 ・前年に細菌性病害(もみ枯細菌病、褐条病など)の発生が見られた場合は、播種後覆土前に カスミン液剤 (4～6倍液・箱当たり50ml)を散布して下さい。 ・覆土の量は、種籾が十分隠れる程度としましょう(転び苗等の防止)。 【苗箱施薬】 ・播種時に苗箱施薬剤を処理する場合は、ルーチンアドスピノ箱粒剤またはエバーゴルワイド箱粒剤を播種同時専用散布機で散布しましょう。 ・育苗ハウス内で野菜を栽培する場合は、播種同時施薬は行わないで下さい。 ・出芽温度は30℃を厳守し、途中で、こまめに温度や出芽状況を確認しましょう。						
		【乾籾 120g の目安】 <table border="1"> <tr> <th>乾籾</th> <th>催芽籾の容量</th> <th>水切り後重量</th> </tr> <tr> <td>120g</td> <td>200ml</td> <td>150g</td> </tr> </table> 厚まきは、軟弱徒長や病害の発生を助長します 	乾籾	催芽籾の容量	水切り後重量	120g	200ml	150g
乾籾	催芽籾の容量	水切り後重量						
120g	200ml	150g						
4/28	搬出・緑化 (緑化は2～3日間) ハウスの温度は 昼:25℃以下 夜:10℃以上	②ハウス搬出直後の管理 ～気象変化が激しい時期です。こまめな温度管理を心掛けましょう！～ ・搬出は原則として午前中に行い、かん水は覆土を落ち着かせる程度としましょう。 ・苗の白化を防ぐため、速やかに被覆資材で遮光し、葉が緑化したら被覆資材を取り除きましょう(約3日後)。 ※搬出時に高温の場合は、 苗がヤケないように搬出直後から換気を徹底 しましょう。 ※搬出時に低温の場合は、搬出を見送るか、搬出してもかん水せず、寒冷紗等で被覆し保温に努めましょう。 ・ハウス内の適切な位置に温度計を置き、こまめに温度を管理しましょう。 ・晴天ではハウス内の温度が急激に高くなるので注意しましょう。 ただし、気温の低下(5℃以下)が予想される場合は保温に努めましょう。						
		春は時々強い風が吹きます。 ハウスの風対策は万全に!!  気温が高くなったら要注意 しっかり換気を！						
4/30	硬化前期 ハウスの温度は 昼:25℃以下 夜:10℃以上	③ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底 ・水不足による葉ヤケを防ぐため、床土の乾きに応じてかん水を行いましょう。 ・水をかけ過ぎすぎると根の伸びが悪くなるとともにカビ等が発生しやすくなります。 ・気温の低下(5℃以下)が予想される場合は、被覆資材で保温しましょう。						
5/5 ～ 5/8	硬化後期 ハウスの温度は 夜:10℃以上	④田植えの1週間前頃からは夜間も換気 ・かん水は原則として午前中に1回たっぷりとかけましょう。 ・低温や強風が予想される場合を除き、昼夜ともにハウスのすそを開けましょう。 ※強風時でも温度が高い場合は、風下のすそを開けて換気しましょう。						
5/15	田植え	栽植株数70株/坪、植付本数3～4本/株、植付深さ3cmで初期の茎数を確保！						

2 育苗期間中の病害対策

対象病害	使用農薬	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500～1000倍	500ml/箱	発芽後	1回のみ
青カビ	ベンレート水和剤	500～1000倍	500ml/箱	播種7日後頃まで	2回まで
白カビ、青カビ、赤カビ	ダコレート水和剤	400～600倍	500ml/箱	播種時～緑化期(播種14日後まで)	2回まで

☆苗箱施薬による病害虫防除

～苗箱施薬は規定量を確実に入れましょう～

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネツトムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネヒメハモグリバエ	1回
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ(白葉枯病、イネヒメハモグリバエ:移植3日前～移植当日のみ)	1回

※紋枯病の常発地の場合(特に早生・晩生品種の場合)

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
エバーゴルワイド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、 紋枯病 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	1回

(注意①) ルーチンアドスピノ箱粒剤、エバーゴルワイド箱粒剤は粒径が小さいので、処理前に必ず目盛を調節し、処理量を確認して下さい。

(注意②) 育苗ハウスで野菜を栽培する場合は、播種同時や育苗ハウス内での施薬は行わないで下さい！(ポジティブリスト対応)。

3 耕起・代かき

田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えないなどの問題が生じます。
 耕起・代かきは丁寧に行い、圃場の均平に努めましょう。



■作業のポイント

作業名	ポイント
耕起	<ul style="list-style-type: none"> 過湿状態で耕起を行うと、トラクタが沈み、耕深が不均一になるため、圃場が乾いた状態で行う。 大きな高低差がある場合は、耕起作業の前に直しておく。 トラクタの作業速度を落とし、作土層15cm以上を確保する。 トラクタの取扱説明書を確認し、各機種の様式に基づいて作業する。
代かき	<ul style="list-style-type: none"> 代かきから田植えまでの期間が長くなると、雑草の生育が進み除草剤が効きづらくなるため、日数が長ならないように、計画的に行う。 練りすぎは、土壌の通気性が低下し、苗の活着や根張りが悪くなるので、練りすぎない。 代かき後の濁り水を排水に流さない。

秋に耕せなかった方は、春に丁寧に耕しましょう！



4 基肥の施用

初期生育を確保し、稲体の活力を維持するため、基肥は下記の施肥基準例を参考に確実に施用しましょう。

■施肥基準例

<肥効調節型肥料(基肥一発肥料)体系>

(単位:kg/10a)

土壌区分	コシヒカリ				てんたかく		てんこもり	
	<標準タイプ>		<省カタイプ>		肥料名	施用量	肥料名	施用量
	肥料名	施用量	肥料名	施用量				
砂壌土	LPss コシヒカリ 1号	35	けい酸加里入り LPss コシヒカリ	45	LPs	40	LPss	45
壤土・黒ボク	LPss コシヒカリ 2号	30	LPss コシヒカリ	40	早生専用	35	晩生専用	40
粘質土		27		35		30		35

<分施肥体系(基肥+穂肥2回)>

(単位:kg/10a)

土壌区分	肥料名	基肥(側条)		
		コシヒカリ	てんたかく	てんこもり
砂壌土	基肥206	32	40	45
	基肥555	26	35	40
壤土・黒ボク	基肥206	25	35	40
	基肥555	20	30	35
粘質土	基肥206	23	30	35
	基肥555	19	25	30

※規定量を確実に施肥するために！

- 田植前には**施肥ロール、ブラシを点検・清掃実施！**
- 肥料袋の裏に記載してある**比重を必ず確認！**
- 田植機の施肥量は、田植機のメーカー・型式の**目安表で確認し、施肥量調量ツマミで目盛位置を設定！**
- 田植作業中も**肥料が予定通り落ちているか随時確認！**
- 毎始業点検時に**施肥ロール部に肥料が詰まっていないか確認し、詰まりはコンプレッサー等で除去！**

※全層施肥の方は、各営農経済センター又は農林振興センターまでご相談下さい。

お 知 ら せ

○消毒済み種籾の無料廃棄処分について

・4月20日(金)～5月31日(木)まで、昨年と同じ場所に廃棄ボックスを設置します。必ずネット袋に入れた状態で持ち込みをお願いします。**設置場所：立山(旧立山営農センター)、上市(旧上市配送センター)、滑川(旧滑川営農センター)**

○トラクタ等農業機械での作業後、**公道を水田の土で汚したら、各自責任を持って片付けましょう。**

◎平成30年度も「電子メールによる営農情報の提供」を行います。

登録はこちらから！

・スマートフォンやパソコン等で簡単に登録でき、ご希望の情報を選択できます。

<http://ja-alps.com>



・すでに登録されている方は、手続きなしで引き継がれます。詳細は「広報アルプス4月号7ページ」をご覧ください。

★春の農作業安全運動実施中(4/1～5/31) 事故防止には、適正農業管理(GAP)の取組が効果的！